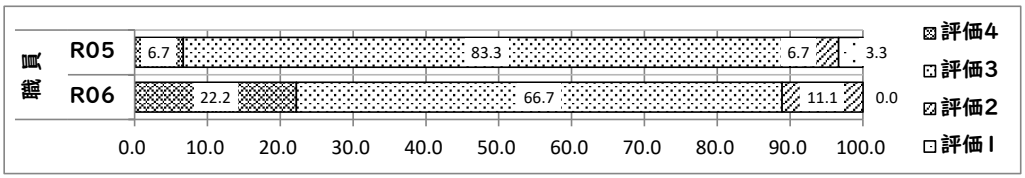
令和6年度 学校自己評価 集計結果及び考察

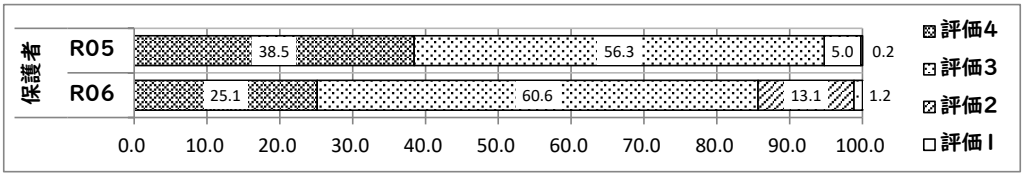
四日市市立内部中学校
令和7年2月5 日

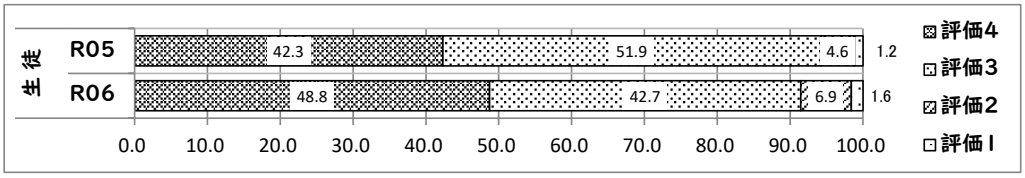
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

①学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。



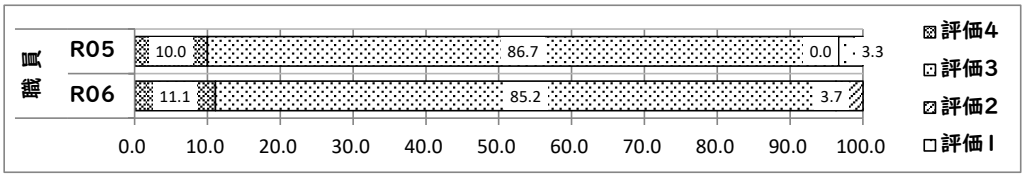


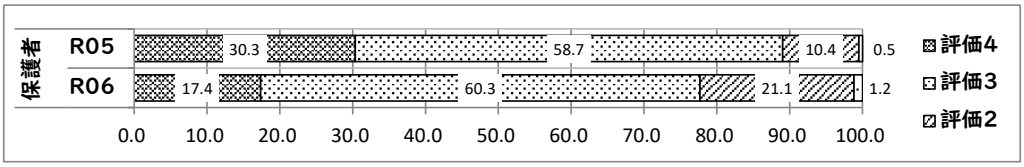


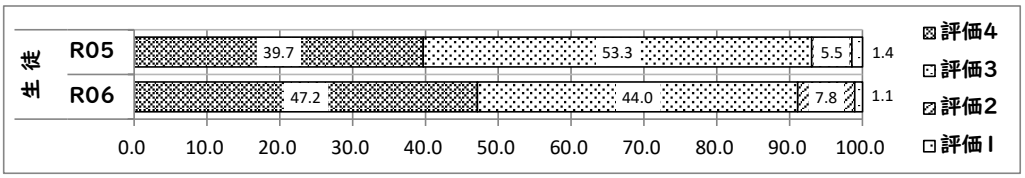
おおむね昨年度と同様の学校教育活動を進めることができた。学校行事についても、十分な練習や準備期間の確保ができたこともあり、職員や生徒の「十分である」の数値の向上につながっていると考える。また、体育祭や土曜授業で実施した文化祭合唱リハーサル、文化祭等の学校行事には多くの保護者の方に来校していただき、直に生徒の様子や学校の様子を見ていただくことができた。その結果がおよそ86ptの「十分である・おおむね十分である」の評価につながっていると考える。

一方で、保護者の「十分である」の評価がおよそ13pt下がっている点と「十分である・おおむね十分である」の評価がおよそ9pt下がっている点については、学校に対して批判的な思いを持っているのではなく、学校へのさらなる期待であると考える。教育活動の意図が十分に伝わり切っていない可能性や、十分なコミュニケーションが図れなかった可能性もあると思われる。職員と保護者のつながりが強くなることが、より充実した教育活動につながると考えるので、生徒や学校の様子を見てもらえる機会を増やすことや、学校ホームページや通信等の充実でより学校を知ってもらえる機会を確保していく必要がある。

②先生は，分かりやすく、すすんで参加できる授業をしてくれている。







生徒は、「十分」「おおむね十分」が91ptとなりほぼ前年度と同様の結果である。本年度は自己肯定感を高めていくために「プラスのストローク」を増やしていく取り組みを実施してきた。日頃から生徒たちとの対話を重視した授業を各教科で展開してきた結果だと思われる。しかし、保護者においては、「おおむね不十分」が前年よりも大幅に増えていることから、学校での取り組みが保護者の方に十分に伝わっていないことが考えられる。一方で、生徒においても「十分でない」「おおむね不十分」の回答が8．9ptいることから、授業内容を十分に理解できていない生徒や授業内容が簡単だと感じている生徒がいることにも目をむける必要がある。また職員にも「十分でない」と回答している者がいることからも自己の授業に対して厳しく見ている、またはもっと良い授業がしたいという思いの表れだと判断できる。今後も引き続き、授業改善を図っていきたい。

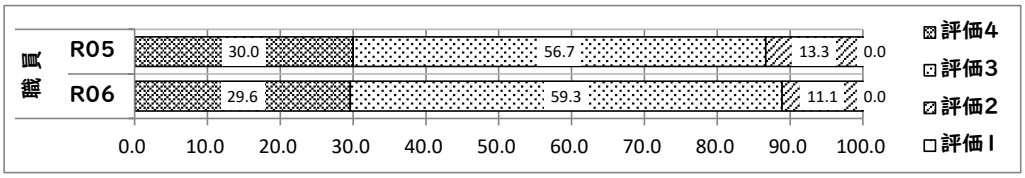
学校自己評価 集計結果及び考察

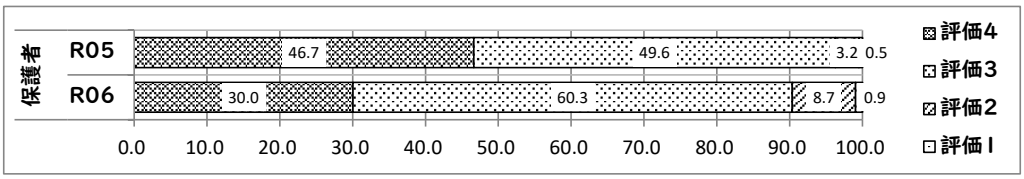
令和7年2月5 日

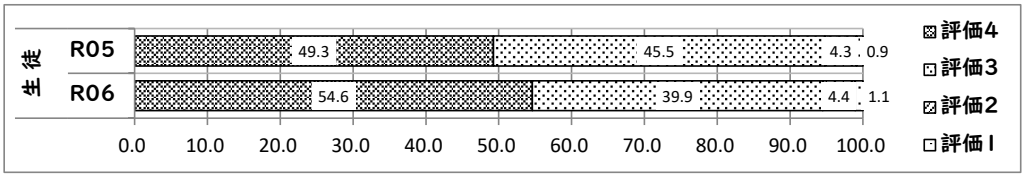
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

③学校は、生徒会活動や委員会活動を通し、主体的に取り組む生徒づくりに努めている。

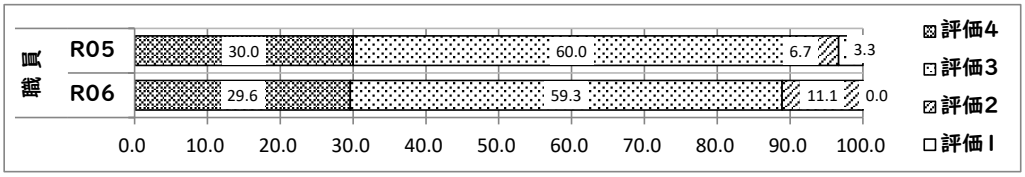


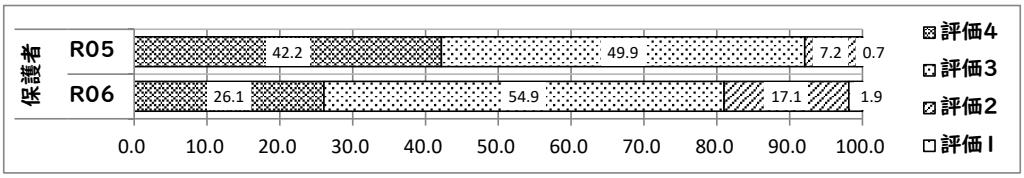


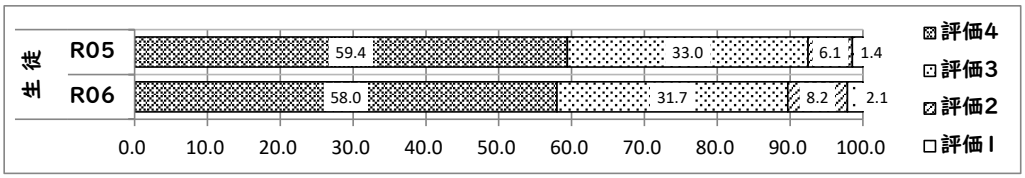


保護者、生徒ともに「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。昨年度に比べ、職員のポイントも上がり、90ptに近い評価となっている。生徒の回答に着目すると「十分である」が50ptを超えており、生徒自身が委員会に積極的に参加し、その活動によって学校活動を支えているということを実感できていることが分かる。行事では生徒会、代議員からなる実行委員会の充実した活動を中心に、全校生徒で成功体験を味わっていることが本校の良さの大きなところであり、今後も継続させていきたい。保護者のポイントが昨年度と比べ若干下がったのは、生徒がどれだけ家庭で各活動の話をしているのかの差である思うが、生徒会だよりや各委員会からの便りで家庭に向けて情報発信をおこなっていくことを継続していく。職員のポイントが上がっているのも良い傾向で、生徒と共に各委員会での活動を充実させることができていることが分かる。

④学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。







生徒、職員ともに「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。これは日頃から道徳の時間や人権教育にしっかりと取り組んでいること、また生徒との対話を通じて、いじめや暴力をゆるさない学校づくりに取り組んでいることの成果であると考える。一方で、保護者の評価の「おおむね十分でない」「十分でない」が増えていることから、生徒たちへの声掛けや学校の取り組みが保護者に上手く伝わっていないと考えられる。そのため、より一人ひとりの生徒に向き合い、心を通わせることについて努力をしていくとともに、学校での取り組みや日頃の生徒の様子などを発信していく場面や方策を考えていくべきである。また、いじめや暴力については担任等、教師が一人だけで対応したり、抱え込む状況をなくし、複数での対応、養護教諭やスクールカウンセラー等との連携と通じて、いじめや暴力の早期発見、対応に取り組んでいく必要がある。

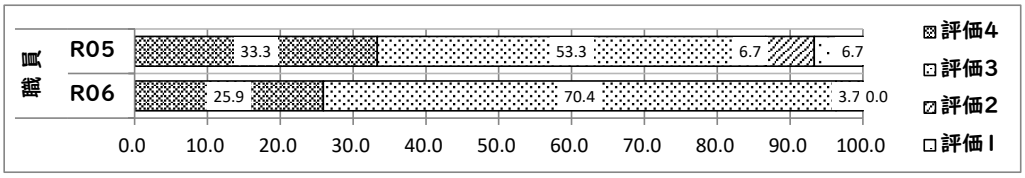
学校自己評価 集計結果及び考察

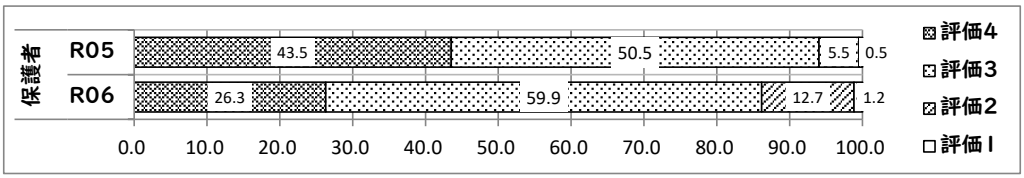
令和7年2月5 日

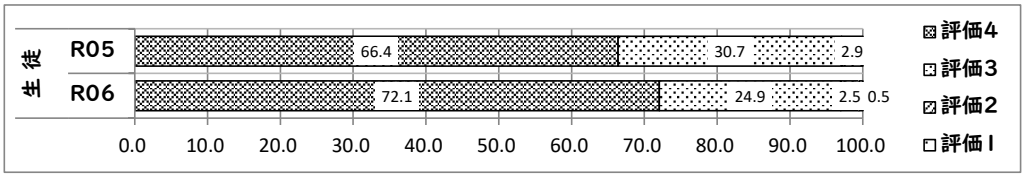
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

⑤学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切にする生徒を育てようとしている。

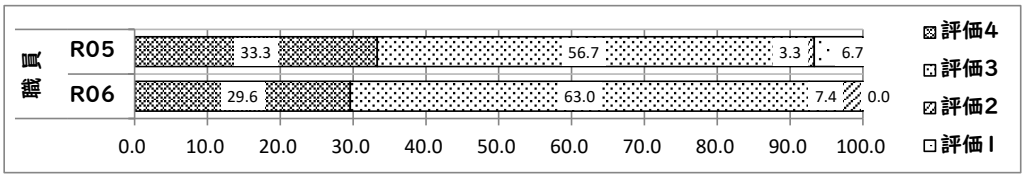


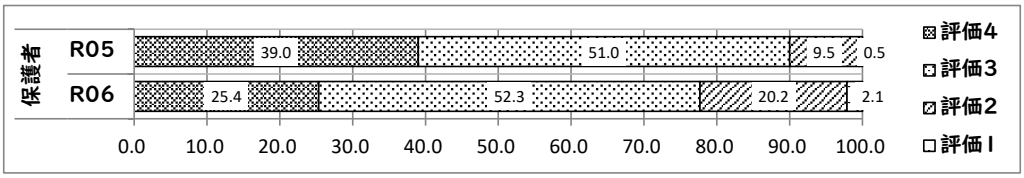


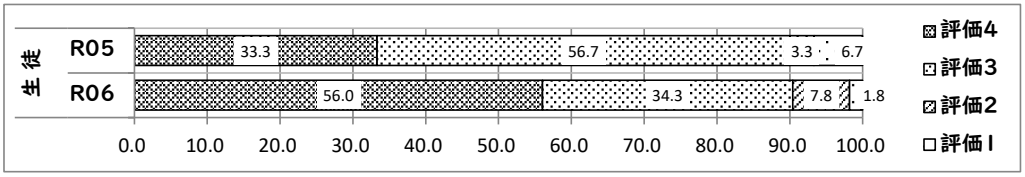


生徒・教師とも「十分である」「おおむね十分である」が95ptと大変高い結果となった。各学年ですべての学校活動を通じて、人権の大切さについて伝えてきた結果であると考えられる。しかし、保護者の方の結果については前年度と比べ「十分である」「おおむね十分である」が大きく減少している。これは家庭や地域での中学生の様子を見た際、課題を感じられているのだと考える。学校と家庭や地域が協力をして、情報共有を密に取りながら人権感覚豊かな生徒を育んでいきたい。また、少数ではあるが生徒の「おおむね不十分である」「不十分である」と答えた生徒がいることに目を向け、ひとり一人が大切な命であることを日頃から伝えていくとともに、道徳や人権学習を中心とした学校生活を通じて、多様な人権を守っていく主体者としての実践力を備えた生徒の育成をより一層進めていきたい。

⑥学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。







生徒は「十分である」「おおむね十分である」が90ptを超えている。しかし、保護者の評価の「不十分である」「おおむね不十分である」が前年度より増加している。このことから学校生活に充実感や満足感が得られていない生徒や保護者の思いをしっかりと受け止め、生活ノートや教育相談などを通じて一人ひとりの生徒の思いを受け止める場面を一層大切にしていきたい。それに加え、学校がどのような取り組みをしているのか、それを生徒がどのように受け止め、どう成長しているのかと言った部分をしっかりと発信していき、保護者の方に知ってもらう必要がある。また、担任や部活動顧問等、これまでは担当教職員のみで対応してきた事柄も、担当以外の教職員や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが情報を共有し、早めに解決にあたって行くことが重要だと考える。

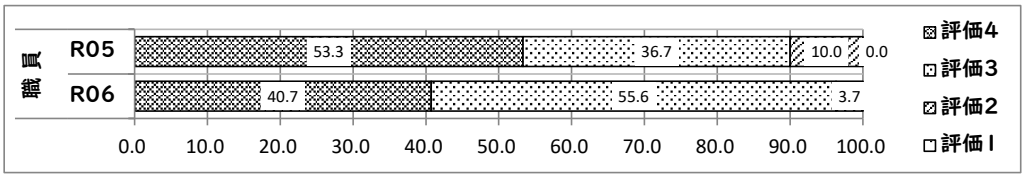
学校自己評価 集計結果及び考察

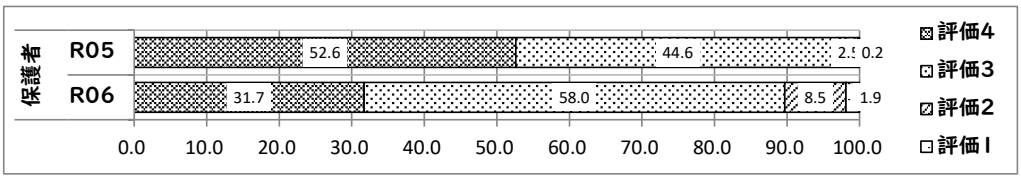
令和7年2月5 日

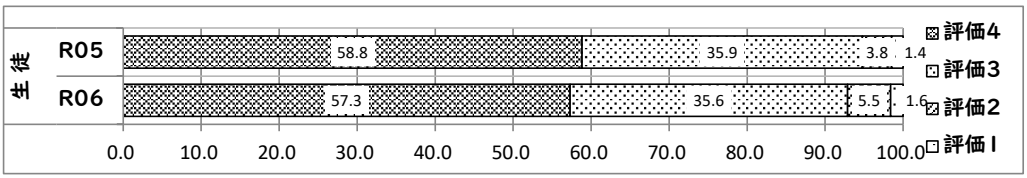
‥評価4 十分である　‥評価3 おおむね十分である　‥評価2 おおむね不十分である　‥評価1 不十分である

（単位：%）

⑦学校は、生徒が健康で安全な生活を送れるような学校環境づくりに努めている。

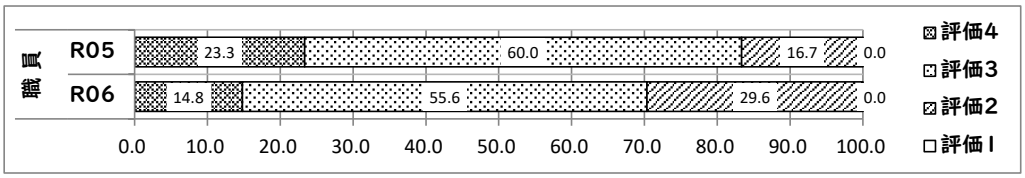


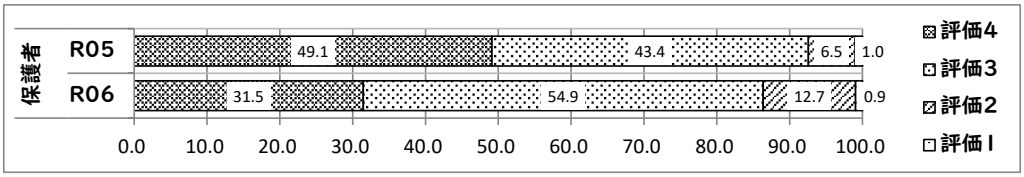


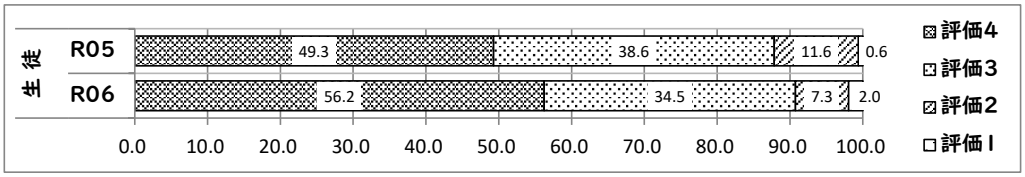


保護者89.7、生徒93.1ptと高い数値を示しているが、昨年度より下がっている。生徒の安全委員会では毎月施設点検を行っているが、他の生徒や保護者に伝わっていないと思われる。また、校舎の老朽化について十分に対応できていないことや、今年度も猛暑日が続き、熱中症による生徒の体調不良者が多数出たことも課題である。校舎の老朽化については市教育委員会とともに協議しながら対応しているが、今後も引き続き校舎の修繕に取り組んでいきたい。また日頃からの教職員、生徒による校舎内の安全について目視点検を強化していきたい。熱中症対策については「暑さ指数（WBGT)」の基準を厳守し、教育活動を行うことはもちろん、熱中症の症状が出たら保護者に迅速に迎えにきていただく等の対策を徹底する。近年、猛暑傾向は強まっており、今後もその傾向は続くと思われる。熱中症にならない身体づくりや熱中症になった時の対応について、学校と家庭が協力して取り組んでいくことが大切である。

⑧学校は、「朝の読書」や「補充学習」等で充実した時間を過ごさせている。







生徒では「十分である」「おおむね十分である」が増えている。一昨年から全学年で生徒の自主性を尊重した「マイスタ」であるが昨年に比べて、自己の取り組むべき学習内容を見いだせた生徒が多くなっていると考えられる。その一方で、自分の取り組むべき課題が分からずに時間を過ごしてしまっている生徒がいることや保護者では、「十分である」との回答が10pt以上減少しており、十分に保護者の人にマイスタの取り組み内容や主旨が伝わっていないことが考えられる。昨年度に引き続き、マイスタをどのような取り組みにしていくのかについては、再検討が必要と考えられる。朝の読書については昨年度から市立図書館の電子書籍を各自のタブレットで読めるようになり、より多くのジャンルの書籍が読める等、読書活動の充実が期待される。朝を静かな環境でスタートできるよう今後もしっかりと取り組んでいきたい。

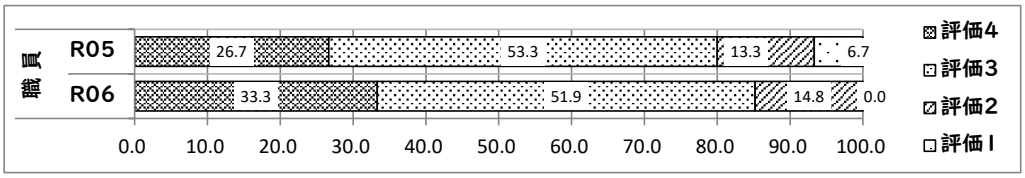
学校自己評価 集計結果及び考察

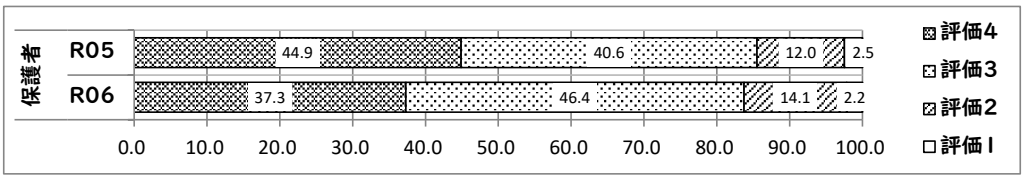
令和7年2月5 日

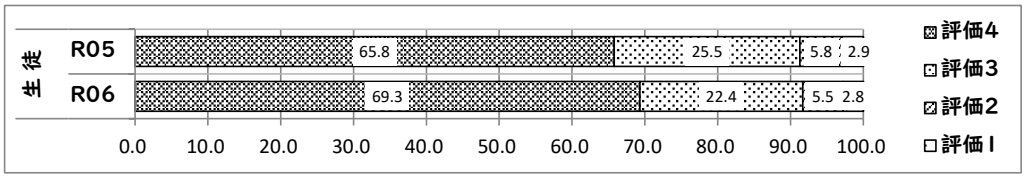
・・評価4 十分である　・・評価3 おおむね十分である　・・評価2 おおむね不十分である　・・評価1 不十分である

（単位：%）

⑨学校は、部活動で適切な指導を行い、楽しいクラブづくりに努めている。

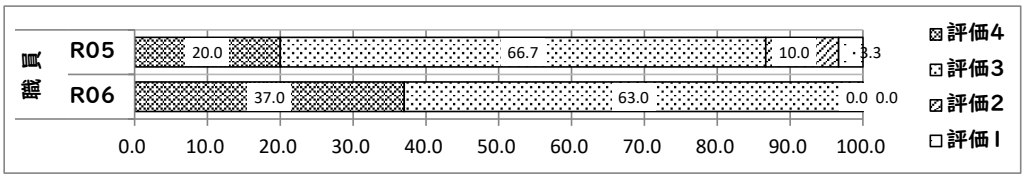


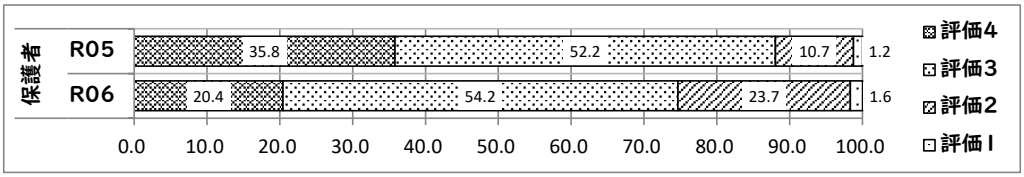


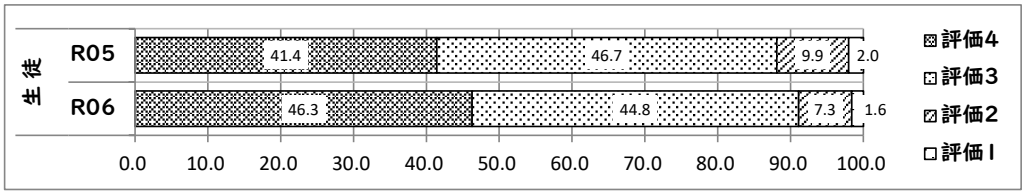


「十分である」「おおむね十分である」が生徒では90ptを超えている。また、昨年度に比べ少し下がったものの職員の回答も85ptを超えている。保護者は、昨年度85ptを超えていたものが84pt程度に下がったものの今年度も高い水準の評価となった。今年度より市全体で部活動は「全員加入制」から「自由加入制」へと移行した。生徒のポイントが上がったのは、部活動をおこないたい生徒しぼられた環境で、自分と同じような熱量を持った仲間と活動を共にしたり、目標を達成して結果を残したりできていることへの満足感などを味わえているからだと考察できる。職員のポイントが上がったのは、部活動の地域以降に変わりつつある中で、本校でも一部の部活動によっては、外部指導員の方たちと連携をとることによって専門的な指導への負担が軽減されつつあるということも一つの要因であると考えることができる。保護者のポイントがわずかであるが下がったのは、部によって活動時間に少し差があることへの意見や本校部活動に対するさらなる期待への現れだと前向きにとることもできる。

⑩学校は、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや、自らの生き方（進路）を考えさせている。







「十分である」「おおむね十分である」が、生徒と職員は、昨年度より増えて90ptを超えた。しかし、保護者については、昨年度より減り80ptを下回った。「志講演」や「職場体験」等キャリア教育に関する体験的な活動は、生徒や教職員は肯定的にうけとめているものの、保護者に対してはその意義や効果が十分に伝えきれていないと捉えられる。こうした取組の目的や生徒たちの成長の様子を学校HP等でよりきめ細かく情報発信する必要があると思われる。また、今後も日々の各教科等の授業と将来の職業とのつながりを実感できる授業を念頭に置くとともに、学校行事や普段の生活をキャリア教育の4つの視点(つながる力、みつめる力、うごく・いかす力、めざす力)で目標を立て振り返る取組を続け、社会的・職業的自立に向けての基礎的・汎用的能力の育成を目指していきたい。